

E

環境
Environment

森林育成・保全を地球環境の最重要課題とした持続可能な経営

基本的な考え方

森林を減らすことなく、木材をどう入手していくか。ウッドワンはこの課題に対してニュージーランドでの法正林施業による半永久的な資源確保を実現することで答えを出しました。地球環境保全と木材調達を両立させた経営により、気候変動の要因となる森林減少などの社会課題解決に貢献していきます。

森林資源の再生と活用

理想の木を求め、ニュージーランドの広大な森を活用し、苗木を育てることから始める。それがウッドワンの植林事業です。時間と手間をかけて計画的に森林を管理することで、木材の有効活用とともに、環境保全と共生に取り組んでいます。

■ ニュージーランドの植林事業

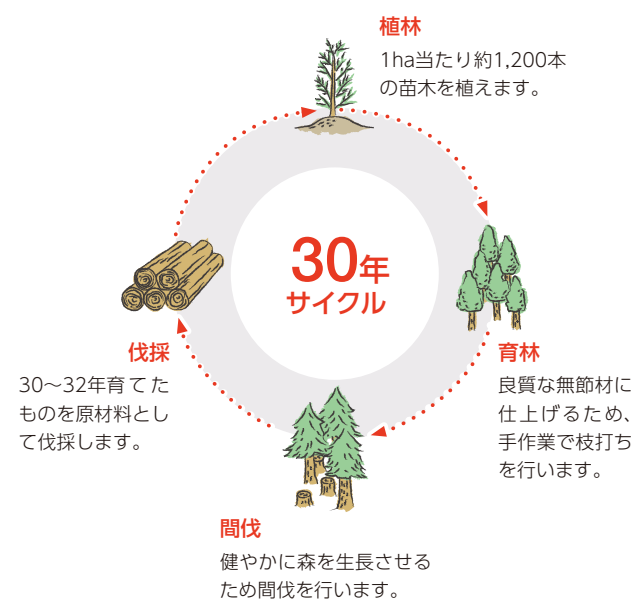
約40,000haの森で、森林経営を行っています

1990年6月、ウッドワンはニュージーランド北島で森林経営権を取得し、現在では約40,000haの森林経営を行っています。植林しているのは、ニュージーパイン®。約30年で樹高30～40mになるという生長の早さとまっすぐ伸びることが特徴です。

■ ニュージーランドの森林経営

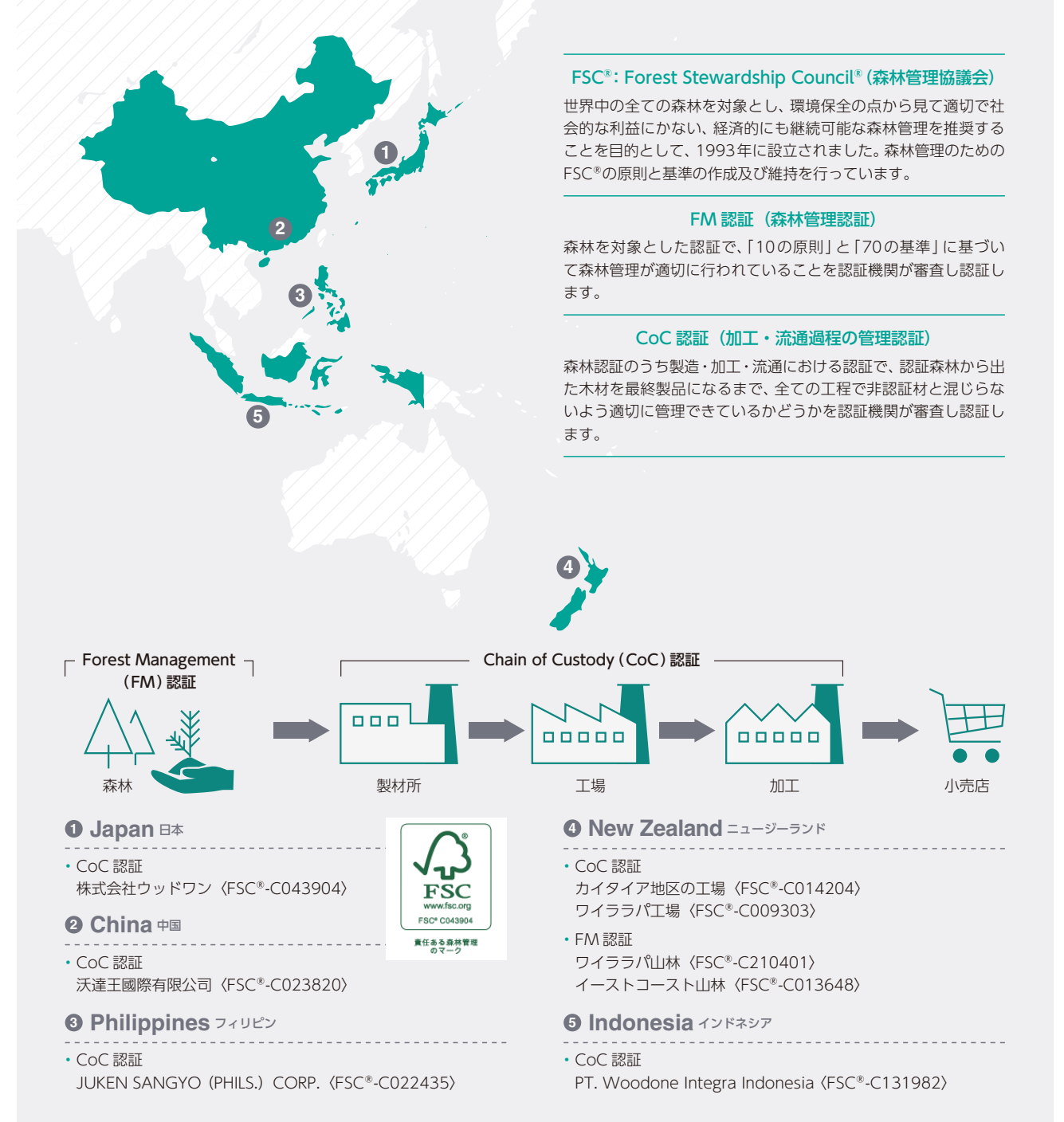
30年サイクルで計画的な植林を実施

ニュージーランドでは約25年で伐採され、梱包材の用途しかなかったニュージーパイン®を、付加価値の高い木質建材として活用するために、ウッドワンは標準伐期を30～32年とし、その間数度の間伐と高い位置まで枝打ちをすることを森林経営の方針としています。



ニュージーランドの全森林・全工場で森林認証を取得しています。

ウッドワンでは、ニュージーランドの全森林・全工場及びフィリピン、中国、インドネシア、日本国内の木質建材工場でも森林認証を取得しています。環境、社会、経済の観点で適切な森林管理が行われていることを審査するFM認証、製造・加工・流通過程における全ての工程で認証材が適切に管理されていることを審査するCoC認証。この2つの認証を取得することにより、一貫した森林認証製品の出荷体制を確立しています。



環境会計

ウッドワンでは2003年度から環境会計を導入し、効率的な環境負荷の削減に活用しています。

2024年度環境会計の概要

2024年度の環境保全コストにおいて、費用額は965百万円で、前年と比べ2.1%の増加となりました。環境保全効果においては、電気使用量の削減対策により前年から0.2%減少させることができました。国内の全ての製造拠点で使用する電力を実質的にCO₂排出ゼロの自社バイオマス発電所由来の再生可能エネルギーに切り替えたことで温室効果ガス排出量を抑制しています。環境保全対策にともなう経済効果については、バイオマス発電所で発電した電力を販売したことにより1,055百万円の収入を得ています。

● 2024年度環境会計

集計範囲：株式会社ウッドワン

対象期間：2024年4月1日から2025年3月31日まで

集計方法：環境会計ガイドライン2005年版を参考に、ウッドワンの事業を考慮した独自の区分により集計

環境保全コスト

区分	主な取り組み内容	2023年度		2024年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
バイオマス発電	木くずによる自家発電にかかる費用	－	888	－	889
省資源・リサイクル	廃棄物削減・処理費用	－	36	－	66
商品の化学物質対策	ホルムアルデヒド、VOC対策費用	－	4	－	1
公害防止	大気汚染、水質汚濁、騒音・振動防止費用	－	5	－	6
管理活動	環境負荷物質の測定、EMS関係の費用	－	4	－	1
環境に配慮した製品開発	環境に配慮した製品の研究開発費用	19	5	－	－
合計		19	945	－	965

※人件費については、時間に全社平均賃率を乗じて計上しています。

※減価償却費については財務会計上の金額を計上しています。

※複合コストについては原則100%環境保全目的のコストを計上しています。

環境保全効果

環境パフォーマンス指標	環境保全効果 [※]		
	2023年度	2024年度	前期との差
電気購入量(千kWh)	20,395	20,342	-53
電気使用量(千kWh)	26,266	26,210	-56
水資源投入量(m ³)	258,760	224,558	-34,202
温室効果ガス排出量 (Scope 1+2)(t-CO ₂)	2,890	2,857	-33
廃棄物等総排出量(t)	4,139	3,536	-603
化学物質(t)	6.0	5.5	-0.5

※環境保全効果＝基準期間の環境負荷の総量－当期の環境負荷の総量。

環境保全対策にともなう経済効果

区分	(単位：百万円)	
	金額	主な内容
有価物売却	1,055	売電収入
	3	金属くず売却

ニュージーランド植林事業の環境会計

CO₂の“吸収源”としての森林

当社グループのジューケンニュージーランドリミテッド(JNL)が運用する約40,000haの森林のうち、ニュージーパイン[®]によるCO₂の吸収量は、年間68.9万t-CO₂になります。

CO₂の“貯蔵庫”としての木材

温室効果ガスであるCO₂は、森林で樹木に吸収された後も木材中に固定されています。木材製品を生産することは、植林で吸収したCO₂を、炭素として固定する貯蔵庫を生産しているといえます。JNLが2024年度に創出した木材の量は81,834tで、これによる炭素固定量をCO₂に換算すると、6.8万t-CO₂でした。

ニュージーランド植林事業の環境会計

植林・育林コスト

年度	投資額	費用額	環境保全効果	
2023年度	2,145百万円	8,280百万円	CO ₂ 吸収量	68.7万t-CO ₂
			CO ₂ 固定量	9.4万t-CO ₂
2024年度	2,110百万円	6,603百万円	CO ₂ 吸収量	68.9万t-CO ₂
			CO ₂ 固定量	6.8万t-CO ₂

創出した木材の量

年度	木材創出量
2023年度	113,118t
2024年度	81,834t

森林経営の地をニュージーランドにした理由とは…

日本の杉が60年かかって成長し用材となるのに対して、北米原産のニュージーパイン[®]は多雨多湿で生育条件のよいニュージーランドでは30年という短期間で生長し、強度的にも申し分のない樹種であることがわかったからです。

各目標のマネジメント(単体)

環境面における重要課題の達成のため、以下の評価指標を定めて進捗管理を行う。

指標及び目標

指標	単位	定性目標	数値目標 (2030年)	実績 (2022年度)	実績 (2023年度)	実績 (2024年度)
CO ₂ 排出量(Scope1+2) 売上高100万円あたりの原単位	t-CO ₂	温室効果ガスの排出量を低減させ、地球温暖化対策に貢献する	0.048	0.058	0.060	0.059
電気使用量 売上高100万円あたりの原単位	千kWh	温室効果ガスの排出量を低減させ、地球温暖化対策に貢献する	0.523	0.567	0.545	0.540
返品率	%	返品率を低減することで、廃棄物を削減する	0.21	0.29	0.31	0.24

再生可能エネルギー

ウッドワンでは、生産過程で発生した木くず、未利用材などを燃料とするバイオマス発電所を中心に、環境に配慮した再生可能エネルギーの利用を推進しています。

バイオマス発電の実施

ウッドワンでは、「木を活かしきる」という考え方に基づき、生産過程で発生する月間約800tもの木くずを木質資源として有効利用するため、木質バイオマス発電所の運用による発電事業を展開しています。

1980年に愛知県の蒲郡工場にバイオマス発電設備を初めて導入し、当時は発電した電力を自社使用していましたが、2015年に本社敷地内に新設したバイオマス発電設備では発電した電力はFIT制度(再生可能エネルギーの固定価格買取制度)^{※1}により全量売電し、本格的に売電事業に参入しています。

発電燃料は生産過程で発生する木くずのほかに、本社を置く広島県内産の未利用材を積極的に活用することで国産材の活性化に貢献しています。

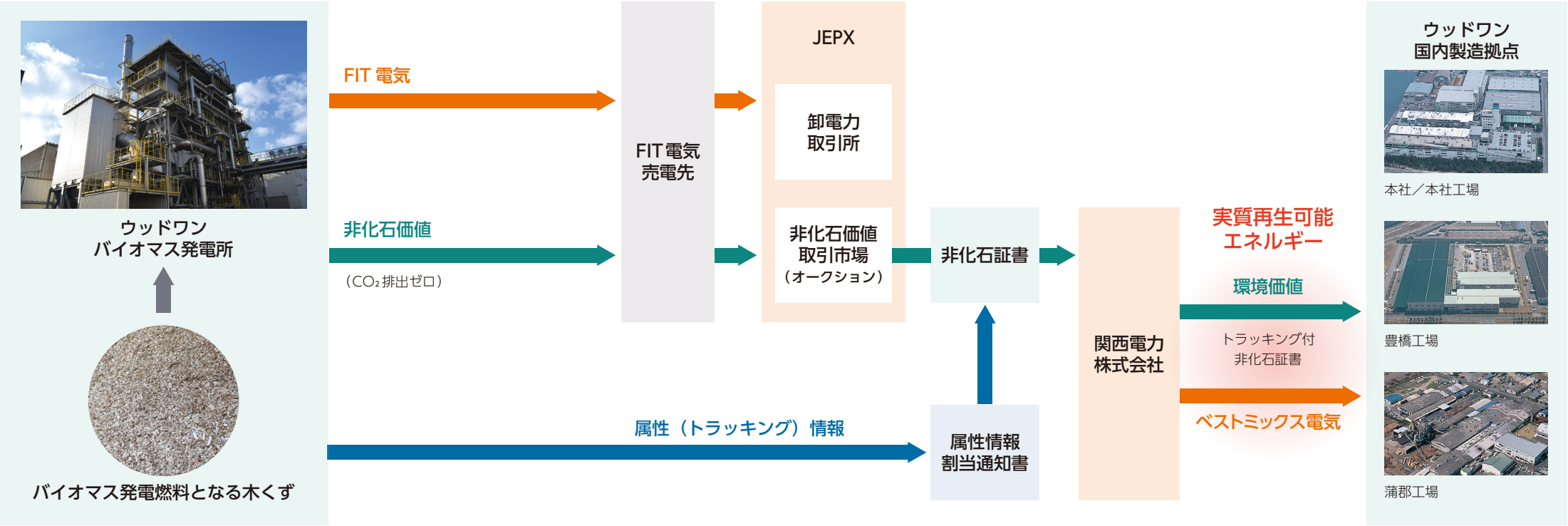
※1 再生可能エネルギー固定価格買取制度：
太陽光、風力、地熱、小規模水力、バイオマス発電により発電された電力を、電力会社が全量20年間固定価格で買い取る制度です。買い取り価格は電源の種類、使用燃料(バイオマスの場合)によって細かく設定されています。

自社のバイオマス発電所由来の再生可能エネルギー導入

2022年4月よりウッドワンでは、事業活動における環境負荷軽減のため、関西電力株式会社が提供する「再エネECOプラン(トラッキング付帯)」^{※2}を活用し、自社の木質バイオマス発電所で発電された、再生可能エネルギー由来で実質的にCO₂排出ゼロの電気を自社工場で使用しています。再生可能エネルギー由来の電気が持つ環境価値(CO₂を排出しないこと)を証書化したFIT非化石証書にウッドワンバイオマス発電所の属性情報(電源種や発電所在地などの情報)を付加した「トラッキング付非化石証書」を購入することにより、ウッドワンバイオマス発電所に由来するCO₂排出量ゼロの電気を国内全ての当社製造拠点にて使用しています。

トラッキング付非化石証書は、脱炭素社会を目指し、企業が自ら事業で使用する電気を100%再生可能エネルギー由来の電気で賄うことを目指す国際イニシアティブ「RE100」への適応が可能です。

自社バイオマス発電所由来の再生可能エネルギーに切り替えた電力はウッドワンが使用する電力量の約75%に相当します。



※2 再エネECOプラン(トラッキング付帯)：
再生可能エネルギー由来の非化石証書を持つCO₂排出量ゼロの付加価値(環境価値)に再エネ電源のトラッキング情報を付加するメニュー。

輸入木質バイオマス燃料の使用実績について

FIT/FIP^{※1}に基づくバイオマス発電事業については、燃料の安定調達・持続可能性を確認する観点から、輸入燃料について一定の情報公開が義務化されています。

ウッドワンでは、資源エネルギー庁策定の事業計画策定ガイドライン(2024年4月改訂)に基づき、【輸入木質

バイオマス】についての情報をWebサイト上で公開しています。

https://www.woodone.co.jp/sustainability/environment/pdf/woody_biomass_fuel_2024.pdf

年度	燃料名	持続可能性(合法性)を担保している 第三者認証スキーム等の認証	発電所使用量(t)	固有の識別番号
2024	木質チップ(工場残材由来/国内)	FSC ^{※2}	10,205	-
	木質チップ(工場残材由来/海外)	FSC [®]	4,801	-

※1 FIP(フィード・イン・プレミアム)制度：
再生可能エネルギー発電事業者が電力卸市場への売却など市場価格で電力を販売する際に、プレミアムを上乗せする制度。売電単価に市場変動の要素を加味しつつ、プレミアム分だけ売電単価を高くすることで再エネの事業性を高め、かつ段階的に市場原理に近づけようとするもの。

※2 FSC[®]: Forest Stewardship Council[®](森林管理協議会)